

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に注意》

- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【きゅうり等】 コナジラミ類
- 【野菜・花き類】 オオタバコガ

《10月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水稲 (収穫後防除)	ジャンボタニシ				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
ぶどう (収穫後防除)	べと病				
	褐斑病				
	ブドウトラカミキリ				
もも (収穫後防除)	せん孔細菌病				
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ (発生に注意)				
みかん	黒点病				
	ミカンハダニ				
	ミカンサビダニ				
果樹類全般	果樹カメムシ類				

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
なす	褐紋病				
	うどんこ病				
	アザミウマ類				

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり (施設抑制)	べと病				
	うどんこ病				
	褐斑病				
	ミナミキイロアザミウマ				
	黄化えそ病 (発生に注意)				
				コナジラミ類	
	退緑黄化病 (発生に注意)				
トマト・ミニトマト (施設)	葉かび病・すすかび病				
				コナジラミ類	

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・ 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
	コナガ				
	アブラムシ類				

《(参考)10月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(大阪管区气象台9月29日発表)

A 水稻 (収穫後の防除について)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[注意すべき事項] ・稲刈り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らす。 ・耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

B 果樹

1 ぶどう (収穫後の防除について)

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	発生に注意	[注意すべき事項] ・落葉の組織内で胞子の状態で越冬する。 ・落ち葉や被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。
褐斑病	発生に注意	[注意すべき事項] ・被害枝や葉に付着した病原菌が越冬し、翌年、再び風雨により飛

		<p>散し、感染・発病する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枯枝や落ち葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
ブドウトラカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が枝の内部を食い進み、被害を受けた部分は黒くなる。糞は外に排出しない。 ・せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。 ・収穫後の防除を徹底する。

2 もも（収穫後の防除について）

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落葉の痕部や枝の組織内で越冬する。 ・薬剤防除の際は、事前に秋期せん定を行い、薬液がかかりやすくしてから、ムラがないように散布する。 ・収穫後も被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。 ・本病の多発したほ場では、収穫後の防除を徹底する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6月～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない～ ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・10月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～10月に降雨が多いと発生が多い。 ・枯枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。 ・収穫前日数の長い薬剤については、防除時期に特に注意する。 ・QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
ミカンハダニ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・薬剤散布を行う際には、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

ミカンサビダニ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
---------	--------------	---

5 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・ 9月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場により飛来量は大きく異なる可能性があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、発生及び被害状況を確認する。発生を認めたら、速やかに薬剤防除を実施する。 ・ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。 ・ 特に露地の水なすで発生しやすい。 ・ 盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。 ・ 病原菌は被害植物とともに土壤中に残り、次作の伝染源となる。 ・ 発病を確認したら柄子殻（小黑点）が作られる前に直ちに発病部位を取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ QoI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
うどんこ病	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80% で日照不足が続くと発生しやすい。 ・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。

アザミウマ類	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場及び周辺の除草を行う。 ・ 葉の被害に注意し、少発生時の薬剤散布を徹底する。 ・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	--------------	---

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	やや少ない ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 10月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気温 20～24℃で発生が多い。 ・ 排水を良好にし、多湿・結露を避ける。 ・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。 ・ 予防散布が大切である。
うどんこ病	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の降水量は平年並～多く、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・ 被害葉を除去し、風通しを良くする。 ・ 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
褐斑病	やや少ない ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・ 10月の降水量は平年並～多く、気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温、多湿の施設栽培で発生が多いことから、施設内の換気を良好にする。 ・ 被害葉、老化葉は早めに除去する。 ・ 初期防除が重要である。 ・ QoI 剤、SDHI 剤は、耐性菌が生じやすいので、1作1回程度の使用に努める。
ミナミキイロ アザミウマ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。

		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期は、葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病などのウイルスを媒介する。 ・施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネット又は0.4mm目合いの白色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場及び周辺の除草を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
黄化えそ病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろりり、にがうり等に感染する。 ・MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。 ・MYSVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
コナジラミ類	やや多い ～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。 ・施設の開口部を0.4mm目合いの防虫ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場及び周辺の除草を行う。 ・タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病のウイルスを媒介する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
退緑黄化病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・CCYVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・10月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件で発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが

		<p>黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害茎葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。 多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。 薬剤耐性菌が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1 作 1 回程度の使用に努める。
<p>コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)</p>	<p>やや多い ～多い</p>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 吸汁による果実の着色異常のほか、すす病、タバココナジラミによるトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の媒介など様々な被害を引き起こす。TYLCVに対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、防除を徹底する。 施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ほ場及び周辺の除草を行う。 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 トマト黄化葉巻病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

D 野菜・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部地域で多かった。 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努めるとともに、葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	平年並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年並であった。 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコガ	やや多い ～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地域で多かった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広食性で、多くの作物を加害する。 ・ 発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・ 幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・ 摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	やや少ない ～平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、やや少なかった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。 ・ 発生初期に防除を行う。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
アブラムシ類	平年並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 9月の黄色水盤への誘殺虫数は、やや少なかった。 ・ 10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては大きな被害をもたらす。 ・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemusikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>